

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-1028	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート調査に参加した母親 約22,000名 試料:なし 情報:基本情報、統柄情報、調査票情報、検体検査情報(ベースライン調査、詳細二次調査)、生理機能検査情報(ベースライン調査、詳細二次調査)、カルテ転記情報		
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	慶應義塾大学、成育医療研究センター		
研究題目	産後の血圧・腎機能の関連要因に関する共同研究				研究期間	2022年2月～2024年3月	
実施責任者	小原 拓	所属	東北メディカル・メガバンク機構			職位	准教授
研究目的と意義	<p>本研究は、産後の女性の血圧・腎機能の関連要因を検討します。</p> <p>日本において、慢性高血圧は4,300万人、慢性腎臓病は1,300万人が罹っていると推定されています。高血圧は脳心血管疾患の危険因子として最も代表的なものであり、かつ死亡の原因にもなり得ます。また、高血圧と腎臓病は合併しやすいことも知られています。高血圧や腎臓病の背景には、高齢や肥満、喫煙、飲酒などの生活習慣、家族歴が報告されています。また、女性では妊娠高血圧症候群の既往が自身の将来の高血圧リスクを上昇させることが懸念されています。しかしながら、女性における産科合併症や様々な背景要因と、産後数年での血圧値や腎機能との関連については未だ検討されていない状況です。</p>						
研究計画概要	<p>母親として登録された方の調査票情報、カルテ情報、ベースライン及び詳細二次調査で取得した情報(血圧値や腎機能に関する生理学的検査及び血液・尿検査検体検査情報)の項目を用いて、産後の血圧値や腎機能と関連する項目を調べます。</p> <p>本研究は、慶應義塾大学、成育医療研究センターとの共同研究により実施されます。東北大学では、特に産後の血圧値をアウトカムとした解析、慶應義塾大学では特に産後の腎機能をアウトカムとした解析を行います。成育医療研究センターではデータは扱いませんが、研究に対して助言します。</p>						
期待される成果	特に女性は産後に定期的な健診の機会が少ないため、血圧値や腎機能に関連する要因を検討することで、産後のスクリーニング方法の確立にも寄与できると考えます。						
これまでの倫理 審査等の経過	2022年2月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認(中央一括審査)						
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理指針のほか、別途締結する研究契約を遵守して研究を実施します。利用する試料・情報は、記憶媒体にて慶應義塾大学に提供され、慶應義塾大学においてToMMoが定めるスタンダード区分によるセキュリティポリシーを遵守して利用します。なお、成育医療研究センターは解析にあたっての助言のみで、試料・情報を利用しません。						
その他特記事項	科学研究費助成事業						

※公開日 令和4年3月4日